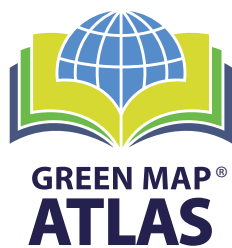


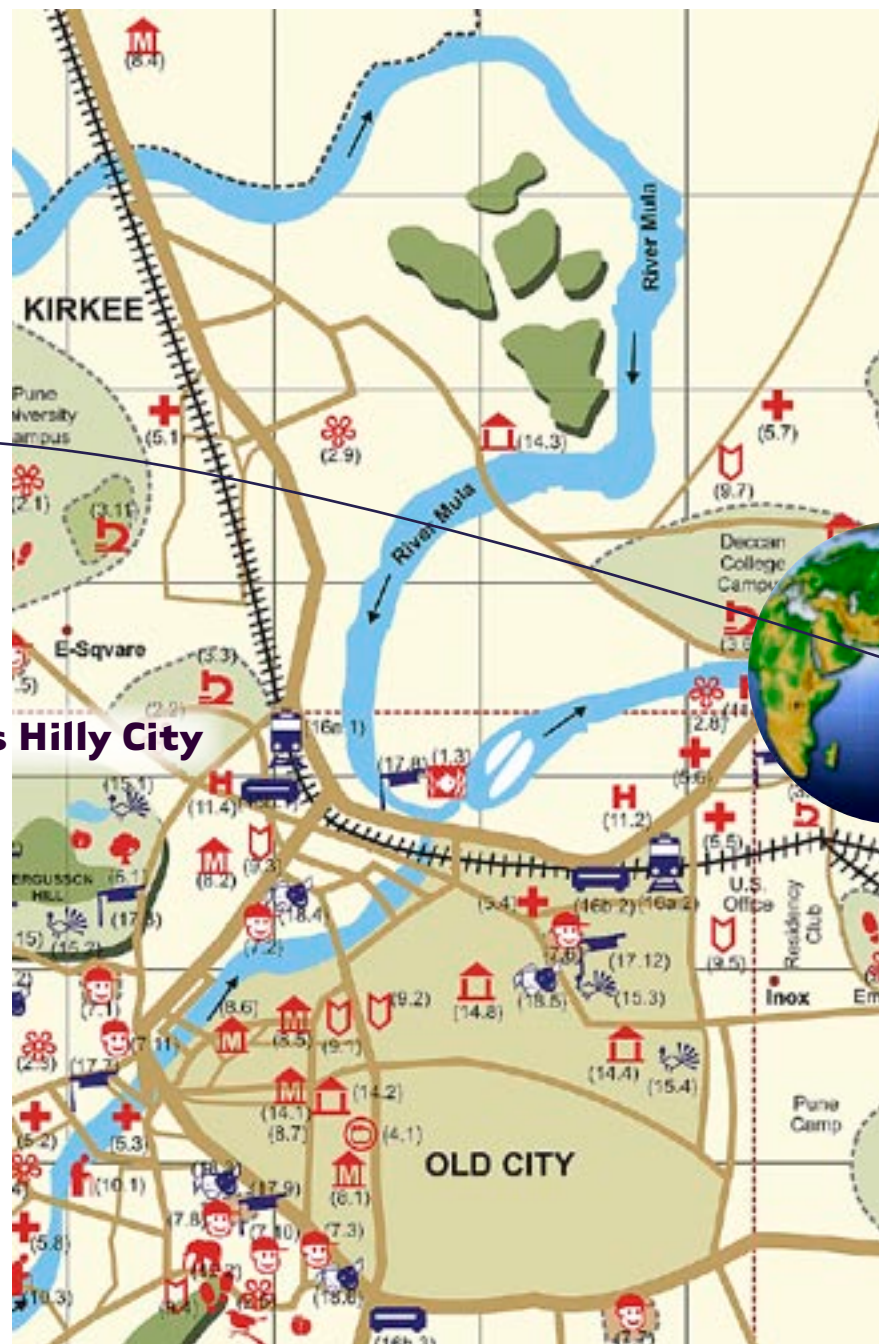


PUNE

Green Mapmaking in India's Hilly City



グリーンマップ・システムは、世界各地で制作される自然・文化環境のマップを通して、地域の持続可能性や市民活動を応援する非営利団体です。

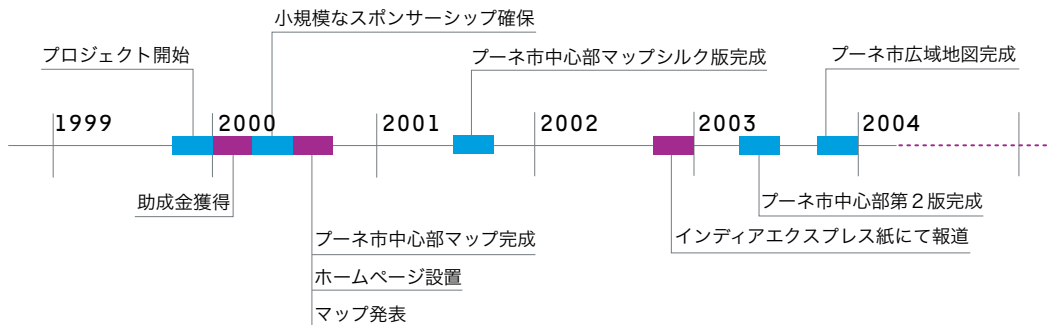


はじめに

Pune · Maharashtra · India
Green Map of Pune
www.anandupalekar.com



プーネグリーンマップ詳細 (2003年)



「始めは暗闇でしかなかった。突然、千の太陽の光が現れた。」(バグワット ギータ)まさにその通りだった—少なくともプーネ市の地図作りに関しては!

インド西部のデカン高原の緑豊かな山々に包まれたプーネ市は、ボンベイから160km東に位置し、300万人以上の住民を抱える名実ともにメトロポリスである。英領植民地時代、夏の首都として利用されていたプーネは、マハラシュトラ州でも2番目に大きく、現在も50%以上の官庁がこの街にある。また、ここはインドの教育の中心地としてもよく知られており、高度な研究機関がいくつも点在している。プーネで開かれた国際マラソンやガネシュ祭りも、今では世界的に知られるようになっていく。

私の専門は建築であるが、地理情報システムにも深い関心を寄せている。1999年、地図データのダウンロードの為にネットサーフをしていたところ、フレンドリーなウェブサイト—これがグリーンマップシステム(GMS)だったわけだが—に遭遇した。学歴も年齢も問わないグリーンマップ作りへの招待状がそこには記されていた。それだけではなく、GMSは自らの所

有する大切なグリーンマップアイコンまで提供していた。私は、街の個性となる様々な資産をシンプルな方法で記録に収め、より大きな持続性に向かって未来に繋いでいくグリーンマップのコンセプトに感銘を受けた。

地図データ

- ・ 使用言語: 英語
- ・ 版数: 3
- ・ 地図形態: アート紙、手漉き紙、絹織物
- ・ 収録サイト数: 130
- ・ グローバルアイコン使用数: 18



プーネの4個のローカルアイコン

マップ制作

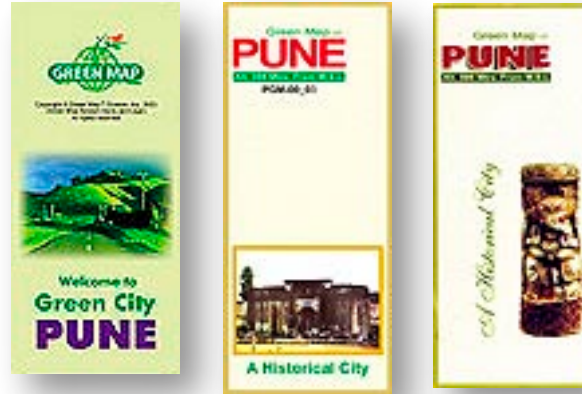
Pune · Maharashtra · India
Green Map of Pune
www.anandupalekar.com

1,000 maps printed on paper
(200 on handmade paper, 100 on silk)

地図制作こそが楽しさの本番だ。サーベイ・オブ・インディアには1962年当時の地図があり、何人かが地図情報を更新もしていたが、ベースマップにはあえて、「プーネA to Z」(パシュラム出版)を選択した。この地図の制作者、S.Pバルヴェ氏が使用を快く承諾して下さったのだ。私達の地図は、市の地図とは違って、現実に近いものであると確信している。

道路、山、2本の川、植民地時代とそれ以前の建築物、洞窟寺、人物など、街の財産は実に様々な形で存在する。建築物だけを比較しても、1200年に及ぶ歴史を垣間見ることができる。私達は私の幼少時代、すなわち1940年代から存在するものをリストアップしようと決めた。そして、約25個のグリーンマップアイコンを選んで、これら街の財産を年代順に分類した。

2000年の時点でプーネには、150Km²の中に200万人もの人々が生活していたので、私たちは慎重に地図の対象地域と基準を定める必要があった。最も理想的な地域として挙げたのは、700年の歴史があり、人口密度も高く親密な生活空間のある市の中心部だ。ここにお見せしている地図は19世紀まであった旧市街のものである。1863年にイギリスに



侵略されて以来、この街は大変貌を遂げ、市外には軍事宿営地ができ、物資の往来を妨げていた河には橋がかけられた。

プロジェクトが進むにしたがって、私たちは、地図にはいろんなサイズや技術があることを知るようになった。GMSからいくつかのマップを送って頂いたので、それを参考にサイズ・色・紙質など選ぶことができた。少しずつ新しい世界が開き始めていた。



(左から)
プーネグリーンマップ(2003-4年)
プーネ中心部グリーンマップ(2003年)
プーネ中心部グリーンマップ(2000年)
サイトのアドヴァイスや他のコメントを前に進捗状況を見る学生達。

テクニカルデータ

ソフトウェア:

CADIAN Arch
Graphic SW

ハードウェア:

Celeron and Pentium
Canon SLR camera
Bicycle
Motorcycle

紙質:

Handmade Paper, Maplitho 100gsm,
Artpaper 130gsm with vegetable ink

地図形態とサイズ:

Folding

- Central & Silk maps: 54.6 X 41.9 cm/
21.5 X 16.5 in
- Citywide map: 55.9 X 43.2 cm/22 X 17 in

チームワーク

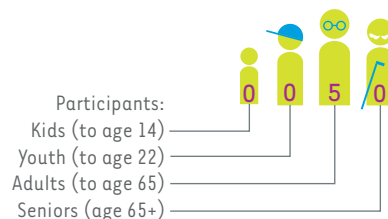
Pune · Maharashtra · India
Green Map of Pune
www.anandupalekar.com

地図制作はやりがいのある挑戦だった。始めは、このプロジェクトをグラフィックデザインやコンピュータ設計システムに慣れている私のオフィスチーム以外の人に広げるつもりはなかったが、プロジェクトが進むにつれ、私たちは環境関連のフォーラムへの招待や講演の依頼を受けるようになった。地図は本当の意味で形になってきていた。

このプロジェクトが自分一人の手中で収まるものではないと気付いた私は、より多くの人に関わってもらうことにした。実際、インドは才能もアイデアも有り余っている国だ。すぐに、準備は整った。ベースマップ、レイアウト、デザイン、情報収集、NGOとの交流—なかなかのリストだったが---などを行った。グリーンマップのアイデアに共感し、関わりたいと思った全ての人に参加してもらった。そして、何としても素晴らしいグリーンマップを作ると心に決めていた私は、文化遺産の保護、環境問題、景観、鳥類学など様々な都市関連の活動をするNGOの人たちに会ってまわった。マラティ劇場を代表する文化都市プーネの著名な劇場や工芸関連サイトも訪ねた。グリーンマップを通して、この街のたくさんの宝物を発見できたのは目を見張る体験だった。



Partners, Advisors and Board members: 5



参加者には、このプロジェクトが商業的意味合いを伴わないこと、ほとんどの労働はボランティアで行なわれることを理解してもらった上で協力してもらった。多くのボランティアは、私の生徒たちだったが、彼らは喜んで制作に参加してくれた。印刷のプロであるニナド・マテが印刷を担当し、グラフィックデザイナーのアヌーブ・チャプヒカとスミタ・パティルには、仕事ごとに報酬を払った。

マーシャル機構のスタッフを >> 含めて、地域のNGOメンバーがアイデアを提供。



<< プーネグリーンマップ 2003年版に素晴らしいデザインをしてくれたグラフィックデザイナーSmita Pacil。



マップ制作者Anand Upalekarは、著名な物理学者、フェミニスト、作家、科学政策提唱者であるVandana Shiva博士にプーネグリーンマップ2003年版を贈呈した。



左端-GMSの広報スペシャリストRobert Zuber博士と2000年7月の初版発表時にいくつかのアイデアを委員会と共有する

制作費

Pune · Maharashtra · India
Green Map of Pune
www.anandupalekar.com

建築家として、プロジェクト予算のやりくりをすることには慣れていましたが、助成金などの資金獲得に関して私は全くの素人だった。スポンサーに頼るより、限られた資金となるが、私の貯蓄を有効利用して資金をまかなった。よって、地図は経済的にも私の器量にも程よい規模のものにした。プロジェクトの総費用は35000ルピー（約700ドル）で、印刷物1000枚、手漉き紙に200枚、インドシルクに100枚がプリントされた。手漉き紙は豊富な繊維とリサイクルされたパルプ材を原料とし、市外50キロに位置する工場で作られている。

シルクに印刷するアイデアはバルベ氏がデジタル画像をシルクや繊維に印刷していることを耳にした時に思いついたものだ。シルクのグリーンマップはスカーフとして女性に使ってもらっている。このアイデアは大変評判がよく、一躍大人気となった。普通紙に印刷されたマップは一枚15ルピー（約30セント）で本屋で販売されていたが、後からほしい人に無料で配布するよう方針を変えた。



プーネマップ初版と第2版に記したグリーンマップアイコン。

これらのアイコンは全グリーンマップに共通に使われている



エコノミックデータ

制作主体: Architecture design group

資金源:
Private funding

主な支援団体:
Self, Hotel Blue Diamond

専任スタッフ: 5

頒価: Rupees 15/copy, but many were distributed free



(上から)プーネグリーンマップ
その他のプロジェクトを紹介しているウェブサイトwww.anandupalekar.com
プーネグリーンマップのシルクスカーフ。
(背景)プーネグリーンマップは再生紙ともみ殻から作られた手漉き紙に印刷された。

評価

Pune · Maharashtra · India
Green Map of Pune
www.anandupalekar.com



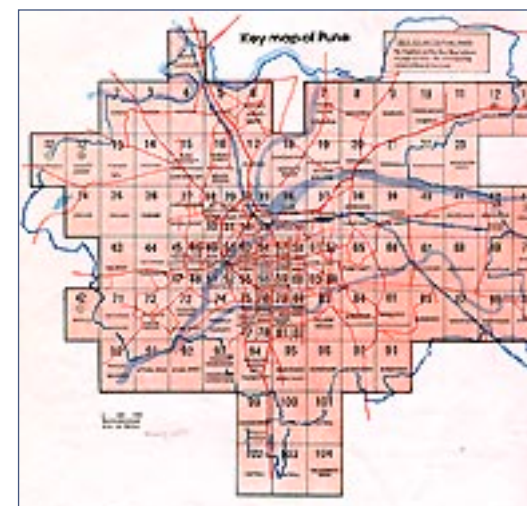
掲載誌(左から)『インドタイムス』紙(2002年11月13日)・Marathi語の新聞『デイリー・サカル』紙(2000年7月31日)。

ロバート・ズーパー博士がプーネに来るのに合わせて私たちの地図は発表されることになり、必然的に5ヶ月間で地図は制作されることとなった。制作期間が決まった時点で、作業分担を細かく分けていくのは簡単だった。なんといっても制作チームはやる気とエネルギーで溢れていた。そして、1999年9月の頃から思い描いていたものが着実に実現していった。

プーネ市庁の委員長であるアショク・デシュパンデ氏は、出版記念イベントの取り仕切りを快く引き受けてくださり、このイベントはインドでは縁起が良いとされる7月27日(2000年)に設定した。来訪したロバートは地図データの最終チェックやアイデアの提供など、様々な形で協力していただき、おかげでイベントは成功に終わった。彼は私たちにたくさんのインスピレーションを残してくれた。ヴィジェイ・パラニペ(環境問題専門家)、プラカシュ・ゴレ博士(鳥類学者)、シャラド・マハジャン(NGO-マシャル)、ブラシャント・ヴァグマレ(プーネ都市エンジニア)、アルヴィンド・コルハトゥカル(元ムンバイ株式取引所長)、その他サカル、インディアンエクスプレス、タイムズ・オブ・インディア、ケサーリやローカルテレビの記者がイベントに出席した。

出版記念イベント以降、私たちの元にバンガロール市、ムンバイ市、コルハプル市、トゥリバンドラム市、ナシク市などから地図の制作を希望する問い合わせが相次いだ。このうちの幾つかの街は、制作に向けて動き出している。これは、私たちのプロジェクトが、世界的ネットワークのあるグリーンマップシステムのプラットフォームの上で行なわれた制作だからこそ得ることのできた反応と言えるだろう。

2003年末にヴァンダナ・シヴァ博士は講義のためプーネに訪れた。講義の後、私は彼女に2000年版と最新版のグリーンマップを紹介した。グリーンマップのことを既に耳にしていた彼女は、「プーネは創造的な活動するのに最適な街ですね」と私たちの活動を賞賛した。



(上から)Anand Upalekarと最初の草稿マップを紹介した『India Express』紙(2002年11月14日)・S. P. Barve氏による『プーネ、AからZ』はプーネマップのベースマップとして使わせていただいた。

むすび

Pune · Maharashtra · India
Green Map of Pune
www.anandupalekar.com

まるで星座が宇宙に散らばる星たちをつなぎ描くように、グリーンマップはプーネという街の本当の魅力を描く。持続可能な世界への希望を、世界共通アイコンを使って地図に載せていくアイデアは、多くの人にとって斬新なものだ。しかし現在では遺産マップや木の地図を作るといった特別な目的をもった地図プロジェクトもある。

自治体の協力を経て、私たちは2002年から2003年にかけて新たなグリーンマップを制作した。初版は150平方キロメートルだった対象面積を250平方キロメートルに拡大し、18の町村を掲載した。若い世代に街の本当の姿を知ってもらい、街の理想や未来を描ききっかけになるよう、この地図はプーネ市内にある423の全ての学校に配布される。

私自身にとって、街の豊かな資産を発見することは楽しく貴重な体験だった。この地図を手にした全ての人々が、私と同じだけの楽しい時間と貴重な発見が街の中に見いだせることを望む。なかでも、都市開発にたずさわる人間は、より心と目を開いて、この街の持つ豊富な資産に敬意を払った都市開発を提案してほしい。

“これはエコツーリズムの視点から街をとらえた唯一の地図である。住民の協力のもとで制作されたこの地図だからこそ、都市の本当の生活と文化を垣間見ることができる。”

—パース・ラワテ、テクディグループ

“この地図は私たちの街の顔だ。価値ある庭園や資産、建物を地図にしていくなあなたの努力を称えたい。”
—ブラシャント・ワグマレ氏、都市エンジニア、プーネ自治体

“地図を基盤にした情報システムは全ての都市に欠かせないものであり、中でも巨大化・複雑化していく中心部において、それは重要な意味を果たす。環境学の生徒や旅行者にとってグリーンマップはとても役に立つだろう。”

—シャラド・マハジャン NGOマシヤル企画長



Aga Khan王子によって寄贈されたKasturba Gandhi記念館。ガンジーが軟禁されていた場所で、彼の妻もここで亡くなった。



どの家庭にでもあまる真鍮のポットは金属職人によって生産され、磨きをかけられる。



(左から)手作りのカラフルなガラス製のプレスレットなどを売る伝統工芸店。これらの品々は、元々紀元前4世紀にはローマから輸入されていた。礼拝用の花市場、多くの花売りが小道に花を並べる。



(左から) 歴史あるプーネ大学の本部は元はViceroyの館であった。
プーネの緑多い丘を抜ける陽気な散策コースに沿って、深い山の精気が伝わってくる。

クレジット

プーネストーリー監修:
Anand Upalekar
Nebula Consultants
A1, Teej Apts
Senapati Bapat Road
Pune 411016
India
tel: +91 (20)256-5802

All map and web images © Anand Upalekar.
All photographic images © Sneha Upalekar
2003



<< Utkarsh本取次店のオーナー、Sudhakar Joshi氏は店にグリーンマップを置いてくれている。

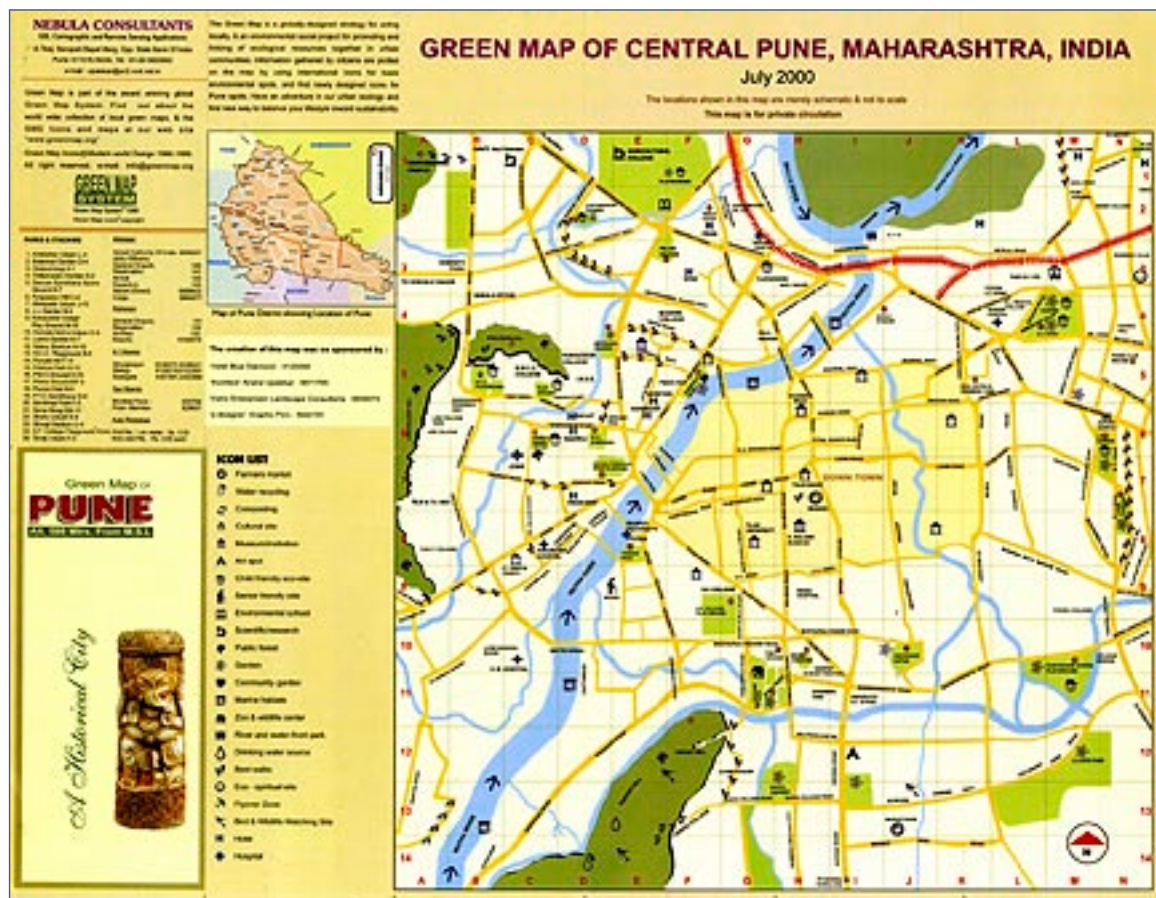
マップの申し込みは?

email to upalekar@pn2.vsnl.net.in
or visit the online store at
www.greenatlas.org

www.greenmap.org, グリーンマップ・システムのホームページ: 世界中の全てのグリーンマップ・プロジェクト、グリーンマップ・アイコンポスター、ユースマップ制作ツールなどがいくつかの言語でご覧になれ、リンクしており、持続可能なこの活動への参加のお誘いも掲載しております。



© Green Map® System, Inc. 2004
PO Box 249, New York, NY 10002 USA
info@greenmap.org



新しくできたプーネ市広域地図(2003年)